

第 10 回香川・高知両県知事会議

開催日：令和 8 年 4 月 28 日（火）16:00～17:15

開催場所：J R ホテルクレメント高松 3 階「玉藻」
(香川県高松市)

1 開会

○ 司会（香川県政策部長）

ただいまから「第 10 回香川・高知両県知事会議」を開会いたします。本日、進行役を務めさせていただきます、香川県政策部長の尾崎でございます。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、開催県の池田知事からご挨拶申し上げます。

2 開会挨拶（香川県知事）

○ 池田知事

濱田知事には、大変ご多用の中、香川県にお越しをいただきまして、誠にありがとうございます。また、高知県の幹部の皆さんにも、香川の方にお越しをいただきまして、感謝申し上げます。

今年 1 月に「人口戦略フォーラム in こうち」の方へお招きをいただきまして、ありがとうございました。今日も話題になりますが、人口減少にどう向き合っていくかという、そういう議論が行われまして、大変有意義なフォーラムでございました。

今日はこの会議に先立ちまして、濱田知事、また高知県の皆さんには、イサム・ノグチ庭園美術館をご覧いただきましてありがとうございました。この美術館は、平成 11 年の開設ですから、もう 27 年目ということだと思いますけれども、今日見ていただいたとおり、イサム・ノグチさんの残したアトリエでもあり、そこに作品、未完成のものもありますけど、彫刻や庭園、そして住居、こういったものがご覧いただけたと思います。

そういったものを通じて、また、香川の瀬戸内海に面した自然の魅力も発信をさせていただいているのかなということで、大変、このイサム・ノグチ庭園美術館が香川の一つの財産として、ありがたく感じております。ぜひ濱田知事には、イサム・ノグチ庭園美術館についても、また高知の方でも、知事の口から発信をしていただければ幸いに存じます。

今日は、これから意見交換をしたいと思っておりますけれども、先ほど申しました人口減少にどう立ち向かっていくか、また災害への備え、そして観光振興、それぞれ両県で取り組んでおり、同じ共通の課題ではないかと思っておりますし、いろんな連携もする必要があるのではないかと思います。ぜひ、よろしくお願いいたします。

香川県と高知県は、非常に地理的にも歴史的にも、大変昔から深い縁がある両県だと感じております。そういう意味において、これからさらにいろいろな連携の可能性が、まだまだたくさんあるというふうに思います。

今日、このような形で、いろいろな分野の意見交換をする中で、新しい連携のきっかけになるような、また、一歩になるような、そういったものが出てくれば、非常に意義があるものになると思いますので、限られた時間ではありますけれども、ぜひ建設的な意見交換ができればと思います。どうぞよろしく願いをいたします。ありがとうございます。

○ 司会（香川県政策部長）

ありがとうございます。続きまして、高知県の濱田知事からご挨拶をお願いいたします。

○ 濱田知事

それでは、着座にて失礼いたします。本日は第10回目となります「香川・高知両県知事会議」ということでございまして、池田知事を初めといたしまして、香川県の皆様方にはご準備をいただきまして、またご歓迎いただき、本当にありがとうございます。

池田知事には、先ほどお話にございました、今年1月には本県で開催いたしました「人口戦略フォーラム」にわざわざご来県をいただきまして、パネルディスカッションを厚みのあるものにしていただきまして、本当にありがとうございました。

また本日は、先ほど、イサム・ノグチ庭園美術館の視察の機会をいただきました。お話にあったとおり、私も大変感銘を受けまして、屋島であったり、五剣山であったり、周辺の景色を借景として、地域全体を庭にしたような庭園の美術館ということで、このイサム・ノグチ先生のご崇高な芸術精神、また、そのアトリエの当時のままの雰囲気を感じることができまして、しばし別世界に浸ったというような感じでございますし、その周辺を参りましたときに改めて思いましたけれども、この地域が豊かな石材に恵まれているところだということも改めて感じまして、香川県のお持ちの文化的な背景といたしますか、その素材も含めたところの底力といたしますか、文化の分厚さといたしますか、そういったものに圧倒された思いでございまして、この点はまた私も高知に帰りまして、いろいろな折に紹介をさせていただきましたり、また高知県も、今いろんな植物園、美術館、動物園、そういった県立の施設につきましても、高付加価値型にしていこうと県内の民間の事業者の皆様方に呼びかけているところなので、県立のそういった施設も、もう少し高い料金を払っても、より高度な質の高いサービスを提供できるというような体制にチャレンジをしていこうということと呼びかけているところでございますので、その一つの私はお手本を拝見させていただいたような思いでございまして、そういった意味でも、イサム・ノグチ庭園美術館の取組みなども紹介をさせていただいて、本県もお手本とさせていただいて、より質の高いサービスを提供できるような施設に、本県も

チャレンジをしていきたいというふうに思っております。

本日は、両県に共通いたします、南海トラフ地震対策ですとか、人口減少の問題などにつきまして、意見交換をさせていただき、また、国に対して力を合わせて、訴えかけていくべきものについては、そうした点も含めて意見交換をさせていただければというふうに思います。また、今お話にございましたように、特にインバウンドの観光などを見ましたときに、いろいろな国内と海外との交流であったり、海外への物産の売り込みであったり、経済活動の単位が国外というところに広がっていくというような状況を見ただけでも、やはり今までの県のエリアだけでの取組みでは限界があって、やはり隣県、そして四国、さらに中四国、西日本、そういったような連携を、いろんな形で取って行って新しい分野にチャレンジしていくということも非常に大事じゃないかという思いでございまして、そうしたパートナーとして、香川県と高知県がいろんなところで、また、新しい連携、提携の取組みができるんじゃないかという、先ほどの池田知事のご発言は大変心強く、また私も大変同感でございまして、そういった観点からも、本日の両県の会議が一つのきっかけになっていけばありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

○ 司会（香川県政策部長）

ありがとうございました。それではこれより、意見交換に入らせていただきます。

なお、本日の日程といたしましては、17時まで意見交換及び両県PRの時間としたいと考えております。その後、17時15分まで、共同記者会見の時間を設ける予定としておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、この後は開催県の池田知事の進行により、意見交換をお願いいたします。

3 意見交換

(1) 南海トラフ地震等の災害に強い地域づくりに向けて

○ 池田知事

それでは早速、始めたいと思います。まずは、「南海トラフ地震等の災害に強い地域づくり」というテーマで意見交換をしたいと思います。私の方から、まず発言をさせていただきます。そのあと、濱田知事からの発言をお願いしたいと思います。

私からは大きくは2点でありまして、まず1点目は、必要な財源確保の観点ですけれども、この南海トラフ地震を含め、大変、激甚化してる災害への備え、これに非常に今、役に立っているのが国土強靱化の予算であると思います。この予算が枠としてできてから、いろいろな防災対策、河川の浚渫であったり、今までできなかったようなことが進んできた経過があり、防災力の強化に繋がっております。

これは政府の計画、予算取りでございましたけれども、昨年6月に法定計画として、初めての「国土強靱化実施中期計画」が閣議決定された。これは非常に大きいこと、意

義があることだと思います。その中で、この令和8年度からの5年間で20兆円強程度を目途に事業規模を考えるということが、法定の計画の中に入ったということでございまして、これは5年で割りますと4兆円強ということになるわけですが、この初年度については、令和7年度の補正予算ということになるかと思いますが、国の国土強靱化予算を見ますと、令和7年度の補正は約3.1兆円余りということで、先ほどの額に届いていない、民間の投資を入れても、やはりちょっと届いていない。20兆円強という、20兆円を超えるという計画と比べて、不十分ではないかなと思っております。

これはぜひ、次の今年度の補正なのか来年度の当初か、この辺はこれからの問題ですが、2か年目については、今年度の1回目を上回る予算になるように、こういった予算の規模については、粘り強く何度も何度も言い続けることが大切ですので、また4県でも一緒にと考えていますけれども、ぜひ濱田知事の方ともまた連携して、国の方にはしっかりと声を届けていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから2点目は、万一起こったときに、やはり災害関連死というのは非常に心配されているわけで、能登半島でも亡くなられた方の大半が災害関連死だと。災害関連死を防ぐというのは避難所の生活環境の改善がいるということで、パーテーションでしたり、トイレの問題でしたり、まだまだ準備が十分とは言えない中で、国の「防災力強化総合交付金」が今年度から新設をされておりますけれども、1つはその対象になっているものが、ややちょっとまだ制約があって、例えば一番、今、香川県でも課題になっているパーテーションとか、そういったものを、ではどこに置いとくかという、いわゆる備蓄倉庫、こういうものが、交付金の対象としては制約がある状態になっているので、もう少し「防災力強化総合交付金」において、避難所の環境整備にもっともっと使いやすくなるような、要件緩和、そして、それ自身の拡充が要ると思っておりますので、その辺はまた一緒に要望をいただけないかなということで、ご提案でございます。私からは以上です。よろしくお願いいたします。

○ 濱田知事

ありがとうございます。今、国土強靱化に関連して池田知事から2点、ご提案がございまして、全く同感でございまして、ぜひ一緒になって働きかけを国にしたいと思いません。

南海トラフ地震によります、国の被害想定も更新をされまして、本県もそれを踏まえた独自の想定を3月に発表いたしましたけれども、建物の全壊戸数であったり、負傷者数が、前回の想定をまた大幅に増えるというようなことで、大変厳しい状況でございまして、特にこの南海トラフ地震というのを考えた場合に、次の地震が来る前に、このインフラの整備を加速したいということで、頑張っって参っているところでございます。

そうした中で、今、池田知事からお話ありましたように、「国土強靱化実施中期計画」、新しい5か年の計画が、総額20兆円強程度という事業規模も示されてございまして、ある意味、少し安心をしていたところでありますが、これがやや今年度、新年度の予算を

見た場合に、お話でご指摘がありましたように、5か年の初年度の規模としては、前の5か年加速化対策よりもむしろ小さくなっているんじゃないかとか、今年、令和8年度の国の予算、あるいはそれを受けての高知県の予算の状況を見ましても、なかなか本来、物価上昇分等をカバーして加速をするというところまで、予算の規模が及んでないんじゃないかと。何とか国の予算の規模も、物価上昇分のカバーをできるのがぎりぎりぐらいの、前年比です、という規模にとどまっているんじゃないかというような感じを、私どもも持っていて、そうした意味でも実質的に加速を図っていくというところには、まだ一步も二歩も、より踏み込んだ措置を来年度、国の方で講じていただかないといけないと思っておりますし、また高市内閣も、特に来年度の予算に向けては、今まで補正予算で組んでおっても、必要なものは当初で組むというような方針も出されているようでございますから、そういった意味で新しい要素もございますので、ぜひこれは香川県と一緒にしまして、国の方でしっかりと、事業量の確保、来年度の予算、また今年の補正も含めてかもしれませんが、確保いただくということについて、働きかけを一緒になってさせていただければと思います。

もう1つは、「防災力強化総合交付金」の避難所の環境整備への対応ということでございまして、ここ2年ほど地方創生であったり、あるいは「地域未来交付金」であったりというところの補正予算の措置の一部で、こうした防災力、避難所の環境整備の交付金が手当てをされてきておったわけではありますが、これを我々の方としては、何とか当初予算で恒久的な措置としてやってもらいたいということで申し上げて参りまして、そうしたこともあって、今お話にあった、「防災力強化総合交付金」が創設をされて、恒久的な手当てとなったということは評価できるというふうに思いますが、ただ中身を見ますと、今、池田知事からご指摘あったように、まだ使い勝手がよくないというところが残っているというふうに思います。例えば、あまり大きな工事を伴うような施設整備ができないとか、逆にあまりに小さ過ぎるものは補助の対象外だとか、あるいは地方負担が伴っていて、これの分についての交付税の手当てがないとか、そういうことでせっかく作っていただいたんですが、今年、高知県内でも市町村での売れ行きが良くないといえますか、これに手を挙げているところがあまり多くないというようなことも、私は聞いておりますので、こここのところの使い勝手を良くしていただくということの改善をぜひ、香川県と一緒に、国の方に働きかけていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(2) 人口減少対策について

○ 池田知事

ありがとうございます。それでは2つ目の「人口減少対策」でございますけれども、このテーマについては、濱田知事から、まず発言をお願いいたします。

○ 濱田知事

本県は、人口減少は全国に先駆けて進んでいるという地域でありまして、この人口減少対策のマスタープランという位置付けで「元気な未来創造戦略」というのを2年前に作りまして、いろんな取組みをして参っておりますが、コロナ禍からの経済の回復の中で、都会の雇用の吸収力が逆に増えている、という局面にあるということもありまして、若者の転出超過ですとか、出生数の減少に残念ながら歯止めが十分にかかっていない状況であります。

一部に明るい兆しが見え始めているというところがありますので、これを何とか確かなものとしていくために、特に高い付加価値を生むような経済への転換を通じて、若者の所得を向上させていくということ、そして、働き方改革を進めて仕事と家庭の両立ができるようにしていくと。この2つを進めることで、結婚や出産の背中を押すと同時に、都会に住む若者や女性から見ても、高知県は、UIターンを考えるに足りると、こういうふうに思ってもらえるような環境を作りたいということで、いろんな努力をさせていただきます。

例えば、国の「重点支援交付金」なども使いまして、この経営の高付加価値化、賃上げを支援する、かつてない規模で、あるいは自由度の高い補助の制度を作ろう、というふうなことを今年度試みておりますほか、全国では今までやったことがない、自治体では初めてになると思いますが、時間外勤務手当の割増率を時限的で、1年限定で引き上げて、その代わりに時間外勤務の時間数は減らすという取組みを、県庁が率先してやってみようということで、いろいろ考えつくことは何でもチャレンジをしようというようなつもりで取り組んでいるところであります。

また、市町村とも一緒になって、今やっておりますけれども、国の方では高市内閣になりまして、「人口戦略本部」という司令塔組織を作っていただいたということですが、具体的な取組みは今から、ということだと思います。そうした中で、特に大都市からの機能の地方への移転ということを、国が本気になって取り組んでいただくというのが、最も大事なことではないかというふうに思っています。最近、経産省が提出されたレポートによりますと、2040年というところを見ますと、AIが普及をしてくることで、大都市部の事務職の需要は減ってくるんじゃないかと、むしろ地方におきます看護師とか、介護士のようなエッセンシャルワーカーの需要は、これはAIでは代替できないので、こちらの方がむしろ不足をしてくるんじゃないかというような話も、推計として出されているように聞いております。だとしますと、例えば大学の定員などについても、高等教育の定員につきましても、事務職養成型の大都市部の大学の定員は抑制してもいいのではないかと。逆に、地方のエッセンシャルワーカーの養成課程、あるいはリスキングの課程などは、むしろ定員を増やして、地方に若者の流れを、大都市から地方への流れを作っていくということ、国も考えていただく必要があるんじゃないかと、こんなことも考えておまして、こういったところの政策の提言も、国に対してしていきたいというふうに思います。

また、地方財政がこういった課題についてしっかり対応していくための財源の確保も大変重要だと思っております。今年度は、地方財政計画の中で、「地域未来基金費」というような費目が新たにできまして、地方が地域の未来のための支出をできるような財源枠を新たに作っていただきましたけれども、私としましてはぜひ、来年度以降、こういったものをさらに発展的に拡充をしていくという観点から、国の方は、責任ある積極財政で、危機管理投資とか成長に向けた投資を積極的にやっていくと言われておりますので、地方も地方の判断で、地方にとって必要な投資、未来に向けた投資ができるような枠を、地方財政計画の中でもっと作っていただくと。過去の借金を返すということで、財政健全化をしていくというのも必要であります、そればかりではなくて、地方も未来の投資ができるような手当てを、地方財政計画なんかでも考えていく、ということ提言していきたいと思っておりますし、与党の税調の大綱の方針が決まっております、来年度の地方税源のいわゆる偏在是正も、しっかりと実施をしていただくように働きかけをしていきたいというふうに思っております。

その他の子育て支援に関する経済的な支援、子育て支援の基幹的な制度については、国が全国一律で制度化をしていくというようなこと。そして、地方自身も人口減少の中で、持続可能な行政サービス、公共サービスが提供できるような、私どもは「スマートシュリンク」と言っておりますが、そんな取組みをしていくと。それについては、スケールメリットの追求のために、今までの市町村合併だけではなくて、例えば本県の消防の広域化のように、機能別に規模の拡大をして、市町村が必要な行政サービスを提供できるように、というような改革を呼びかけておりますが、こういった取組みにも、国の方でしっかりと支援をしていただくというようなことを、ぜひ考えていただきたいと思っております。

併せまして、総務省の方が「広域リージョン連携」という施策を、新たに今年度から打ち出しておられまして、これは都道府県境を超えるような取組みを、経済団体などと多様な連携を取って進める、というような取組みについて、国の方も財政的な支援も考えよう、というようなことのございます。四国でもぜひ取り組んではどうかと思っておりますし、今、四国4県の事務レベル、課長レベルで準備を進めてもらっているというふうに考えておりますけれども、ぜひ四国でも、例えば観光ですとか、経済の活性化とか、こういったものについて、こういう使える制度は使うということでチャレンジしてみたらどうかと思っておりますので、ぜひまた香川県の方でもご検討いただければありがたいと思っております。私の方からは、以上でございます。

○ 池田知事

ありがとうございます。いくつかのテーマがございました。まず、出生数のことについてですけれども、まだまだ子ども、出生数の減少が全国的に止まっていないということがございますが、全国的な数値でも、出生数の減少幅が少し鈍化をしているということで、これをさらに進めて、早い時期に反転するというのが大事なことではないかなと思

っております。香川県では、6年度と7年度で、出生数だけを見ると歯止めがかかったようなことが出てきていまして、さらに反転に向けて、進めていきたいと思っております。

一方で、若者の流出については、なかなかこれが厳しい状況で、もう以前より20歳前後の人の総数が、香川県で生まれ育った人の総数が減ってきているにもかかわらず、都会へ行く人の数はまだ増えているという状況で、総数は減って、出ていく人が増えるということは、残る人はもっと減るということで、30年や40年ほど前の状況とは、また違う局面になって、これは何とか流れを変えないと、いかにいろいろな政策をしても、担って残る人がいないのでは立ち行かないので、いろんな手を打って、若い人には残ってもらうというのを、今年的重要政策にしております。

今年は、とにかく奨学金を、返済の額を大幅に、県内に就職してくれた方は企業と折半をして、もうほぼ返さなくてもいいぐらいのレベルまで引き上げていくというようなことも始めました。とにかく、そういうことを初めとしていろんな政策をやって、残ってもらうということに力を入れております。

それから、そういった中で、国に対していくつか一緒に話をしていかなきゃいけないということ、私も、今、濱田知事からあったことについては、どれも同じスタンスでおります。1つは、お金の流れを地方の方へ持っていく。1つは税の偏在是正があると思いますが、これもやはり、これから日本全体で、地方が力を発揮する部分というのは、農業も然りですし、製造業とか、そういう大きい意味でのものづくりという意味では、都会ではそんなものはできませんので、地方でそこを頑張っていかなきゃいけない。そのために、その国の税金、国全体の税収入にしても、もっともっと地方に手厚く流れるようにして、地方の力をつけて、全国的な生産力を上げていくという、そういう政策をする。そのための税の偏在是正というような、そういうようなこともやっぱり言うていく必要があるかなというふうに考えております。

それから2つ目は、いわゆる子育て政策をさらに前へ進める上で、今、自治体の別にやっている、香川県では医療費の高校までの無償化というのがあるんですけど、これも医療とか教育の部分は、やっぱり全国一律でやっていっていただく話だと思うので、さらに全国一律の制度の拡充を、一緒にまとめていきたいと思っております。

それから、3つ目に、これは要望というよりは、国の政策の「広域リージョン連携」についてのお話がありました。これは本当に四国4県で取り組んでいくことが、これからはもう不可欠、これまで以上に重要になってくると思います。まず観光についても、やはり四国の周遊というのは重要になってくるし、四国は非常にコンパクトな島ですので、4県合わせて考えていける。移動するにしても、そういうコンパクト感、これを生かして一体感をさらに強めていくという。そのために、こういう新しい制度をうまく使って、連携を強化するということについては、ぜひ進めていきたいと思っておりますので、全く賛同でございます。どうぞよろしく願いをいたします。

(3) 四国地方の高速交通ネットワークの整備促進について

○ 池田知事

それから、では次の「四国地方の高速交通ネットワーク整備の促進」について、これは濱田知事からお願いします。

○ 濱田知事

ありがとうございます。特に、四国の8の字ネットワーク高速道路網の整備は、安全安心、そして地域経済の活性化、両面で必要不可欠だと思っております、これも着実に進めていただいておりますということに関しまして、国、関係機関のご努力には敬意を表したいと思っております。

特に、最近昨年3月には、高知東部自動車道の高知龍馬空港と香南のいち間も開通しまして、県の東部がいわゆるミッシングリンクが解消された。まだ先の方は、もっと頑張らないといけないということではありますが、時間、距離以上にも、感覚的な距離が、県東部と中央部も非常に近くなったということで、これは県民の皆さんも整備の効果を実感をしていただいております。

そうは言いますが、全体の8の字ネットワークの県内の整備率は63%ということですので、先ほど話題になりました国土強靱化予算などを含めた、国そして県のこのインフラ整備の予算の少なくとも物価の上昇分以上で、この目減りをしないように確保していくということが必要だと思っておりますし、特に南海トラフ地震というのが、昭和の南海地震から今年80年経ちまして、大体過去を見ますと100年前後に1回の周期で、最近は起きている。90年から150年に1回ぐらいの周期で起きていることを考えますと、南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくないわけでありまして、それに何とか間に合うように、この8の字ネットワークの開通をできるだけ早く持っていくということが大事だと思っております、この点は、池田知事は道路行政のプロでございますので、またいろんなお知恵、ご助言を頂戴しながら取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それから4県の知事の間で、昨年、特に暫定2車線などの高速道路区間で、最近事故が頻発している。この安全対策を、ということが、共同で宣言が行われましたけども、この点につきましても、国の方でも、また新しいタイプの区画柵の設置をすることを試行するというような取組みもしていただいておりますが、こういった取組みを含めて、安全対策を、ぜひ強化していく必要があるというふうに思っております。

私自身も、全国高速道路建設協議会の副会長という役を仰せつかっておりますので、全国の高速道路網の必要性をさらに強く訴えて参りたいと思っておりますので、ぜひ、いろんな形でご助言、またお力添えいただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

○ 池田知事

ありがとうございます。高速道路ネットワーク、全国でもう9割ぐらいの整備率になってきていると思いますけれども、四国はまだ77%という、高知においては63%と、まだ十分な状況ではないというふうに認識をしております。

先ほどの広域リージョンの構想の関係ももちろんありますし、四国がコンパクトを活かすという意味で、この高速道路が8の字で繋がるということは、活かすための不可欠なものであると思います。これは高知の整備も、高知のためということだけではなくて、四国全体の効果が及びますので、やっと事業化についてはできたということで、私もほっとしているところがあるんですけども、ぜひこれを早期完成に向けて、いろいろな、先ほどの広域リージョン構想の中の位置付けをすとか、いろいろなことがあると思いますので、これは4県そろっての整備促進に力を尽くしていきたいと思っております。

同様に、この2車線区間の安全対策、これは、高知の2車線区間、香川の県民も通りますし、非常に危ない状況で、もう一旦事故が起こると、死に繋がるような事故になりますので、全体として安全対策が早く進むように、一緒に取り組んでいきたいと思いません。

(4) 四国における鉄道ネットワークの維持と四国の新幹線の早期実現について

○ 池田知事

それでは次ですが、今度は「四国における鉄道ネットワークの維持と四国の新幹線の早期実現」につきまして、これは私の方から、まず発言をさせていただきます。

四国の在来線のネットワークでありますけれども、まだまだ厳しい状況は続いておりますが、先般もJR四国の社長さんとも意見交換をしましたけれども、今後、2030年に向けて自立していけるようにやっていきたい、というお話がありました。非常に心強い話であるというふうに感じました。ぜひ、この四国の今の在来線ネットワークが、今後とも維持していけるように、JR四国のこれからのさらなる、いろんなご努力を期待するところだし、願うところですし、公共的な意味合いの多い鉄道ですので、できる限りの公共支援というのは、国が基本的にはやってもらう必要がありますけれども、いろんな場面での自治体の支援ということもあるのかなと思っております。

その1つは、駅周辺の整備みたいところで、もっともっとそういったものに、JR本体、JR自身も投資をしていただくように、再三依頼をしておりますが、全部やるというのなかなか難しい面もあるとしたときに、香川の中でも、幾つかの駅のトイレを、自治体や県も幾らか投資をして、直していくというようなこともしております。そういった、一緒になって設備の更新をしていかないと、だんだんそういう利用者が離れることにもなるので、ここは引き続き、JRにももう少し投資を促していきたいと思えますし、それを後押しする自治体の投資も、引き続き考えていきたいと思えます。

それから、四国の新幹線については、次を考えるとときに、今の北海道や北陸の次を考えるとときに、四国が次の一番手になることは絶対不可欠でありますし、そのためには

もうスタートしないといけません。ルートや、駅の配置、在来線の扱いなど、まだこれから決めるわけで、時間がかかることになりますので、早く法定調査に入り、整備計画路線に向けて動かないといけないのに、スタートが切れていないというのは、非常にやきもきした気持ちであります。ようやく基本計画路線のケーススタディをしていくということが、国の方針でも示されましたので、それをぜひ、四国の新幹線を対象にケーススタディを実施してもらって、法定調査に繋げる。ケーススタディを予習として、法定調査になったときには、実は法定調査の1年目、2年目は終わっているぐらいの、そういう調査にさせていただくように、国のほうには強く要望していきたいと思っております。ぜひ、一緒になって強い要請をお願いしたいと思います。濱田知事、お願いします。

○ 濱田知事

ありがとうございます。まず四国の鉄道のネットワークの維持についてでありますけれども、今、池田知事からお話がありましたように、JR四国におきましても、経営の健全化ということで、いろいろご努力いただいておりますけれども、もともと国鉄改革をされた時点に立ち戻って考えますと、JR四国というのは、新幹線とか黒字路線がなくて構造的に赤字なところを、国の財政的な支援の中で何とか継続的な経営を図っていくという体制で、スタートをしてるということでもありますので、他の本島のJR各社とは、大分環境が違うということは、前提として忘れてはいけないということだと思います。

そういう意味で、JR四国におかれましては、ホテル関係ですとか商業施設の整備とか、関連の事業なども鋭意展開をしていただくということも含めて、ご努力いただいております。最終的なこのJR四国の路線の維持ということは、財源も含めて、国が最終的な責任を持って、しっかり担保していただきたいというのが、1つとしての意見でございます。

そうした中で、今、池田知事の方から、例えば駅舎とかトイレの整備についての役割分担の話もございました。これはある意味、地元自治体も見るに見かねて、整備をしているところが正直あると思いますけれども、本来的には、利用者の方の利便性向上施設ということでもありますので、JR四国がしっかり責任を果たしていただくことが、本筋の話だろうというふうに思いますので、そういった観点から私どもも足並みを揃えて、JR四国に対して意見を申し上げていきたいというふうに思います。

特に、また公共交通は、バスも含めて、運転士さんなどの人材確保が今一番大事な状況になっていると思っております。そうした意味で、我々も努力をいたしますけれども、特に鉄道ネットワークの維持のための人材確保については、国の方も、しっかりとこの人材確保策の支援ということに取り組んでいただきたいなというふうに思いますし、こういった、国の方で積極的に関与していただく、後押しをしていただくということに関しては、ぜひ4県一緒になって、タイミングを捉えて申し入れをしていきたいというふうに思っております。

それから新幹線の早期の整備については、ただ今池田知事からお話があったとおりで

ありまして、池田知事には国交省との間の橋渡しのところも含めまして、大変ご尽力
いただいております。今年になりまして、全国の基本計画路線
の関係の地域も、まとまって早期の着工を目指していこうということになっているとい
うのは、大変機運が盛り上がってきているということだと思います。ぜひ、今年の骨太
の方針などにも、大きな基本計画路線の早期の着手に向けての踏み込んだ方針が、明記
をされるように、我々としても働きかけをしていきたいと思っておりますし、今お話にありま
したように、本年度予算では、基本計画路線のケーススタディの予算もついているとい
うことですので、ぜひ、今、新幹線が唯一、空白地帯にあります四国のブロッ
クで、このケーススタディを実施していただくということも一緒になって働きかけてい
ただきまして、これも私、南海トラフの関係では、南海トラフ地震が発生するまでに何
とか、この四国山地を貫くような、瀬戸内側と太平洋側を貫く新幹線の路線ができる
というのが、悲願と思っておりますので、これが達成できるようにぜひ、一緒になって取
組みができればと思っております。よろしく願いいたします。

(5) 外国人観光客の香川・高知周遊促進について

○ 池田知事

ありがとうございます。では次のテーマに移ります。「外国人観光客の香川・高知周
遊促進」について、これは濱田知事の方からご発言をお願いします。

○ 濱田知事

まず、これまで香川県と本県が一緒になりまして、例えば、台湾での商談会ですとか、
香港向けのプロモーション、こういった取組みを一緒になってしていただきまして、成
果を上げてきているということについて、御礼を申し上げたいと思っております。

そして、高松空港の国際線が、韓国、台湾、香港などを結ぶ形で、この利用状況も大
変好調と伺っております、そうした効果もあって、本県に足を運んでもらう外国人の
観光客も順調に増えているということは、御礼申し上げたいと思っております。

今、高知龍馬空港については、台湾からの定期チャーター便が週2便で運行してあり
まして、搭乗率も平均で9割を超えて、好調で推移をしております。こちらも空港の方
も、遅まきながらであります、来年の春には、新国際ターミナルビルが運用開始を予
定しております、今後のこの台湾便の定期便化、また新たなチャーター便の誘致、こ
うしたところに鋭意取り組みたいというふうに思っております。

特に今後は、個人旅行者向けの誘客の取組みを強化したいというふうに思っている
ところでありまして、台湾線におきましては、この四国の中を、例えば金比羅宮とか、栗
林公園なども含めて、高知だけでなく周遊をしていくというコースが最も人気が高い
ということですので、空港を起点として両県の周遊ツアーの造成でありますと
か、お互いの魅力的なポイントを紹介していくといったような形での連携を、今まで以

上にお願ひできればというふうに思いますし、官民連携という観点からも、引き続き、両県で連携ができればというふうに思っております。

そうした形で、先ほど来お話にありますように、四国はおそらく外国から見れば、非常にコンパクトなエリアだということだと思っておりますので、ぜひセットでセールスをしていくということが有効だと思いますので、これは今まで以上に、またお力添えをいただければというふうに思っております。

○ 池田知事

ありがとうございます。高松空港に降り立った台湾からのお客様、香港からのお客様、台湾の場合は15%ぐらい、香港の方も10%ぐらいは高知県を訪問されているということで、もうすでにそういった周遊の実績がありますけれども、もっともっと、今の距離感を考えると、香川、高知の距離を考えると、もっと周遊ができる、そういう関係にあると思います。

いかにそういったことを広めていくかということについては、1つは、そういう周遊の旅行商品をたくさん造成するというので、今後、香川県の旅行会社にも、さらに働きかけていきたいと思っております。それともう1つは、その海外の在住者に向けて、四国全体をPRしていくために、インフルエンサーを使ったSNSでの発信なども、さらに四国4県で進めていきたいと思っております。

昨年、4県知事が集まって、高松、ちょうどこの場所だったんですけども、その4県での観光振興をさらにもう一段上げてやっていこうということに合意をしたかと思っております。今年の6月に、また四国知事会議、今度は鳴門ですかね、ありますけれど、その際には、キャッチフレーズとかロゴも発表するということにもなっていますし、先ほどの広域ツーリズムとのことも絡んでくるんじゃないかと思っておりますし、ぜひ、4県の連携をこれまで以上に強めて、もう一段上げて、海外にも同じパッケージの情報として出していく、旅行商品もそういうものをさらに増やす、これをぜひ、今年度、進めていきたいと思っております。ぜひ一緒に、よろしくお願ひいたします。

(6) プロスポーツを核とした相互誘客の促進について

○ 池田知事

それでは、次に、「プロスポーツを核とした相互誘客の促進」について、これは濱田知事からお願ひいたします。

○ 濱田知事

ありがとうございます。本県では、遅まきながらでございますけれども、昨年の2月に高知ユナイテッドSCがJリーグ、J3参入を果たしまして、やっと四国4県の中で、高知県が最後になりましたが、Jリーグへの参加ができて、大変な賑わいの創出、

あるいはJリーグならではだと思いますが、県外からのサポーターの観戦者の来場、こういったことで、大きな経済効果を我々としても実感しております。

本年は、明治安田J2・J3百年構想リーグが特別大会として行われておりまして、四国内のJ2、J3のクラブが初めて1つのリーグで戦うという環境が今、整っているということでもあります。そうした中で、今特別企画として、「四国サッカー遍路」が立ち上げられまして、四国の5クラブが垣根を越えて連携しようということで、例えば各県の特産品が当たるような特典をお付けするというような、お楽しみ企画もいたしまして、対戦だけではなくて、この四国4県5チームが、交流とか巡り合い、こういったものも楽しんでいけるような工夫がされているというふうに承知をしております。令和8年度のシーズンにつきましても、こうした特産品の提供、観光PRなども実施をしまして、この高知県、香川県、両県の間でも、「土讃戦」というふうな名前を付けておりますが、高知ユナイテッド対カマタマーレ讃岐の対戦、これを昨シーズン以上に盛り上げたいということで、企画を一緒になって検討させていただければというふうに思っています。

それから、野球の四国アイランドリーグにつきましても、観戦者が徐々にコロナ禍前の水準に戻ってきてはいますけれども、客層としてはリピーターの方々が中心であって、やはり新しい客層を開拓していくというところが課題かなというふうに思っております。今後は、この四国アイランドリーグにおきましても、香川オリーブガイナーズと連携をいたしまして、お互いのホーム戦でブースを設けて、地域の製品の提供とか観光PRを実施するといったような形で、相互の誘客というのを強めていければというふうに思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 池田知事

ありがとうございます。まず、サッカーですけれども、私も「土讃戦」を香川県の丸亀競技場でも拝見、観戦しました。高知からもたくさんの方がお出ででありましたし、おっしゃるように、もっともこのいろんな工夫によって、相互乗り入れといいますか、お客様が相互に行き来するようなことはできるんじゃないかなというふうに感じております。ポケモンのキャラクターを使ったり、ということも今までも効果が上がっているようですので、ぜひ具体的にこの「土讃戦」を盛り上げるための仕組みを、企画を進めて参りたいと思ひます。

野球についても、四国は非常にどの県も野球熱心な県ですので、もうひと工夫、ふた工夫をしていけば、相互に観客も行き来するんじゃないかなと思ひます。やはり子どもさんの関係するイベントとかそういうものを、たくさん取り入れながらやるというようなことがあるかなと思ひます。

いろんなイベントをやって、やっぱりアンパンマンショーがあつたら、まずは子どもさんがたくさん来ているとか、そういうのはいつもありますので、その辺にターゲットを当てたものもあるのではないかなと思ひますので、ぜひ1つでも多く実現していき

いと思います。よろしくお願いいたします。

4 PR項目

○ 池田知事

それでは、意見交換については以上でございます。そして、これから両県からPRの時間を1、2分ずつ取りたいと思います。

県立アリーナを活用した夜型観光について

○ 池田知事

まず私の方からですが、この建物のすぐ裏側、海側に濱田知事にも一度、去年の4県知事の時に見ていただきました、アリーナ。これが、期待以上に集客力を発揮していきまして、たくさんの方に来ていただいております。そして、それをさらに生かすという意味で、夜型の観光コンテンツを考えて、1つはプロジェクションマッピングという、建物に光を当ててそこに映像とかそういうものを見てもらおうということで、これもアリーナの曲面状の屋根に当てて、見てもらって、大変多くの方に3日間で3万人とか、多いときは5万人とか、3日間でトータルですけれども来ていただいております。

また、去年の年末にクリスマスマーケットという、これも非常に多くの方に来ていただきました。これは2週間ぐらいでしたけど45万人ぐらい来ていただいて、非常に盛り上がりました。駅に非常に近い、高松駅から3分とかそんなエリアですので、ぜひまた高知の方にも来ていただければ嬉しいなと思いますし、昼間はイサム・ノグチで、夜はプロジェクションマッピングなり、クリスマスマーケットで楽しんで帰っていただくようなこともあると思いますので、ぜひまたPRしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

よさこい高知文化祭2026の開催について

○ 濱田知事

ありがとうございます。アリーナ、大変すばらしい施設が香川県で、作られて、我々も今、県民体育館が老朽化しておりますので、再整備の計画づくりをしておりますが、ぜひアリーナ機能も持たせて、香川県ほど立派なものの中々できないかもしれませんが、いろいろ勉強をさせていただきたいと思いますので、ご教示をいただければと思います。

本県のPRについてですが、特に1点、今年は秋にいわゆる国民文化祭、「よさこい高知文化祭2026」が高知県で開催されます。10月25日から12月6日にかけてでございます。高知県では初めての開催ということになります。観光のキャンペーンであります「どっぷり高知旅キャンペーン」と連動させまして、例えば高知城でのこの期間でのよさこいの鳴子踊りの演舞でありますとか、夜間の高知城の開放とか、こういっ

た様々なプログラムを予定しておりますし、県内の全34市町村におきまして、関連の行事250のイベントを開催する予定です。総参加者数100万人を目標に、官民一体となって盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひ香川県の皆様にもお出でいただければというふうに思います。

それから先日、本県の土佐清水市出身のジョン万次郎を主人公といたしました、NHKの大河ドラマ「ジョン万」が、再来年の1月から放送されるということが決定をされたということが公表されております。これにつきましても、いろんな観光を含めました情報発信をしていきたいというふうに思っておりますので、これにつきましても、また高知にお出でいただく機会となればと思っておりますので、香川県の皆様にもご注目いただければと思います。どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○ 池田知事

ありがとうございます。よさこいの文化祭は、また県内でもPRしたいと思えます。よさこいは本当に人気があって、先日も、この周辺でよさこいのイベントやったら、大変な賑わいで、また香川でも踊り連に来てもらってやっていただければ大変嬉しく思います。

またドラマは、本当に嬉しい限りで、牧野さんから、やなせさんから、今度はジョン万次郎で、次々と実現されて本当にうらやましく思いますし、だけど高知でそうやってPRが起こると、結果的に四国全体にまた人が来ることなので、非常に四国にとっても嬉しいニュースでありますので、先ほどの周遊観光のテーマもまた頭に入れながら、考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○ 池田知事

それでは、予定をしていた意見交換、またPRの時間もすべて終了をいたしましたので、何か知事ありますでしょうか。特によろしいですか。

○ 濱田知事

どうも今日はありがとうございました。

○ 池田知事

ありがとうございます。それでは、進行を司会の方にお返ししたいと思います。ありがとうございます。

5 閉会

○ 司会

どうもありがとうございました。以上をもちまして、「第10回香川・高知両県知事会

議」を閉会といたします。

6 共同記者会見

○ 司会

それでは、引き続きまして、この場で記者の方からご質問をお受けしたいと思います。質問される記者の方は、恐れ入りますが、ご質問の際には、社名とお名前をお願いしたいと思います。どなたからでも結構ですので、挙手をお願いいたします。

○ 西日本放送 沼本記者

西日本放送 沼本と申します。お願いします。本日の会議につきまして、ご感想をお伺いしたいのですが、濱田知事と池田知事、それぞれ今回ちょっと項目が多岐に渡るかと思うんですが、本日の会議の振り返りといいますか、ご感想を伺えたらと思います。

○ 池田知事

まず私の方から、高知と香川、非常に隣り合わせで、距離も非常に近い関係でありますので、今日もそういったことを背景として、特に観光の面についての今後のさらなる連携強化のお話があり、それは今年度から、もう1つでも多く、具体的に進めることが多いなというのは、やっぱり、今意見交換をしながら一番感じたことでございます。

○ 濱田知事

私の方も、1つには観光面などが一番象徴的だと思いますけれども、特に海外とのやりとり、インバウンドの誘客とか、海外への外商活動とか、そうしたことを考えた場合に、県だけで、単県での努力というのが限界があるということ。そして、四国というのが海外から見たら、意外と小さいといえますか、隣り合っただけで近く同士だというふうに見えるんだなということも、いろんなお話し合いの中で実感をしておりまして、そういった連携が、いろんなところでまた深めていけるのではないかと感触を、さらに強く思いましたのと、特に、国に対する政策提言ということでは、南海トラフ地震対策であったり、人口減少への対応であったり、こういったところを通じまして、本当にもう、ほぼほぼ同じようなご意見を持って臨んでいただけるということを実感しまして、国への働きかけという点で、大変頼もしい友軍が得られるのではないかと意味で、心強い限りという感想を持ったところであります。

○ 司会

そのほかございますでしょうか。

○ 読売新聞 福島記者

読売新聞の福島と申します。本日、意見交換の内容をちょっとお聞かせいただいている中で、やはり四国という4つの県のエリア、両県知事のお話の中でもコンパクトにまとまっているというお話がありました。その中で、ちょっと印象に残ったのは、やはり高速ネットワークのお話で、池田知事がやっぱりその四国全体が8の字で結ばれることが、地域全体、四国エリアという中で、大きなメリットを生むというお話だったんですけども、県によって整備率の差があったり、大都市圏と比べたら違いはあるとは思いますが、今後、先ほど濱田知事は、南海トラフが起きるまでに、というような前提条件でお話がありましたけれども、知事のお二人の中で大体、向こう何年かぐらいで、その高速ネットワーク整備を実現、こじつけられたらな、というような目途といいますか、時系列のタイムラインみたいなものがそれぞれお持ちであれば、お聞かせいただきたいんですけども。

○ 池田知事

これは私、国交省時代の本業だったんですけども、大体、年間で200キロぐらい開通してたかと思います。150キロとか200キロとかですね。全国の話ですけどね。今、高速道路ネットワークが1万4,000キロを目標に、ということで1万2,000キロぐらいまではきているんですけど、2,000キロということですので、割り算すると、10年ということになるかと思います。そのペースで考えると、そのぐらいの時期には、もう事業化はできていますので、事業費が入っていますので、このペースでいくと、四国は残ったところと言えばアンカーになっていますけれども、それでもそういうそういうオーダーでは繋がってくるんじゃないかなと。本当はもっと早く行かなきゃいけないんですけど、実際にはそのぐらいのスケジュール感かなというふうには思っています。

○ 濱田知事

これは、もう専門家の池田知事のご発言に付け加えることはありませんけれども、高知県は、今お話ありましたように、全線事業化というところまでは行けておりますけれども、そういう意味で四国全体を見ましたときに、事業化まではまだ徳島の南部が行っておりません。高知県でも東部の市町村は、やはり徳島の方が徳島周りで関西に行けるというルートができることの意味が非常に大きいので、そこは是非とも早くという気持ちをやっぱり持っていますので、四国一丸となって、オーダーとしては10年とか20年、南海トラフを考えても、そのぐらいで行かないと、合格点はないんだと思いますので、そういったタイムスパン感で達成ができるように、一生懸命頑張っ参りたいと思います。

○ 高知新聞社 村上記者

高知新聞の村上といいます。濱田知事にお伺いしたいんですけど、「人口減少対策」のところで、「広域リージョン連携」のことをご説明されたと思うんですけど、その連携と人口減少が、どうこう繋がるのかというのを、もう少し具体的に教えていただければと思います。

○ 濱田知事

「広域リージョン連携」のところですね。これは、やっぱり人口減少の対策として、あらゆる経済の活性化策をやっていくということが、結局、それが稼げる産業を作っていく、またそれが若者の所得向上に繋がっていくという文脈で考えましたときに、やはり高知県の場合は、大都市から離れておって、製造業などの地力が弱い。これはこれで頑張らなければいけないのですけれども、即効性がある対策としては、やはり観光であったり、製造業でも食品などを中心とした、いわゆる地産外商の努力ということだと思います。そうした努力を、高知県だけということではなくて、四国全体で連携をして、より広域で取り組んでいくということが、高知県の経済の活性化という意味でも、非常に大きな意味があるんじゃないかと。そういう観点から、人口減少問題の対策の中の1つと、経済の活性化を通じて、若者の吸引力を増していくというところに繋げていくという観点からの位置付けをしたいという思いであります。

○ 高知新聞社 村上記者

四国全体で経済を活性化して、その中で高知県も、熊本とか定住できるような経済力、経済活性化をしていくという理解でよろしいでしょうか。

○ 濱田知事

そこは、四国全体が伸びていくという中で、高知県も引っ張り上げてもらうという効果は期待できるんじゃないかということでもあります。

○ 司会

そのほかはいかがでしょうか。

○ 朝日新聞 和田記者

朝日新聞の和田と言います。濱田知事にお伺いしたいんですけども、先ほどのPRのところでもおっしゃったように、本当に高知県は、大河ドラマとか朝ドラとかの舞台に選ばれる機会が、本当にたくさんあると思うんですけど、その誘致とかPRで意識してきた点とか、成功のポイントというのは、どういうところにあるのでしょうか。

○ 濱田知事

これは大変ラッキーだというふうに思いますけれども、今回、大河ドラマの結果において選んでいただいたということでもありますけれども、10数年前から、地元では誘致運動なんかもさせていただいたということでもあります。私自身が1つ、NHKの方々にも評価をしていただいているんじゃないかと思うのは、あんぱんの放送をお願いしたときに、チーフプロデューサーをされた倉崎さんとか、川口さん、広報のプロデューサーをされた方、非常に高知でロケなんかをやるという中で、気に入っていただいて、高知の観光応援をしたいと言っていただいて、今年の2月に観光特使にもご両名になってもらったりしました。

ただ、やっぱりいろいろお話をさせていただいて、意見交換の中で感じますのは、ドラマを高知県の県民がこぞって、愛して盛り上げてくれているとか、あるいはいろんなロケなんかをするについても、協力してくれている、おもてなしをしている、というところは何か粹に感じたみたいなことを言っていただきまして、そうしたところがご当人は元よりでありますけれども、制作に携わるような方々みんなに少しずつ、伝播しているということではないかなというふうに思っています。そういうご縁はぜひ大切にして、今回もいろんな形でバックアップをさせていただくということで、高知県も一緒に盛り上がっていくというような、ウインウインの関係がまた築けたらいいなというふうに思っております。

○司会

そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、これで質疑応答の時間を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。以上をもって終了とさせていただきます。